

第 3 回 JTTRI グローバルセミナー

「欧州の鉄道政策が向かう未来とは～日本と欧州の鉄道政策を比較しつつ～」

開会挨拶

皆様こんにちは。運輸総合研究所会長の宿利正史です。

まず最初に、元日に発生した能登半島地震と、その翌日に発生した航空機事故によりお亡くなりになられた方々のご冥福をお祈り申し上げますとともに、ご遺族の皆様にお悔やみを申し上げます。また、被災された多くの皆様に対し、心からお見舞いを申し上げます。

さて、本日も大変多くの皆様が国内外からオンラインで視聴され、また、会場にもご来場いただいております。真にありがとうございます。

今日、日本が抱える交通運輸及び観光分野の諸課題を解決し、あるいは乗り越えて前進するためには、国際的な情勢・動向や国際的な知見を正確に把握し、十分に咀嚼し、比較検討した上で、日本にとって最善の政策を策定し、実行することが不可欠です。そこで、当研究所では、交通運輸及び観光に関連する重要な国際情勢等について、海外の有識者や当事者から直接に講演や対談をしていただく「JTTRI グローバル・セミナー」を 2022 年から開始しました。このシリーズの第 3 回目となる今回は、「欧州の鉄道政策が向かう未来とは～日本と欧州の鉄道政策を比較しつつ～」というテーマで開催します。

当研究所では、英国の技術と技師の支援を得て 1872 年に開業した日本の鉄道の 150 周年を記念して、2022 年に JR 東日本との共催セミナーを開催し、また昨年は、1873 年の日本の貨物鉄道開業 150 周年を

記念して、JR 貨物との共催セミナーを開催しました。さらに、当研究所のこれまでの膨大な鉄道関係の研究調査を振り返って、4 人の歴代研究所長が議論する運輸政策セミナーを昨年開催しました。

日本の鉄道の長い歴史の中で、英国をはじめとする欧州の鉄道と鉄道政策は、その時々において規範とされ、あるいは参考にされてきました。また、最近では、欧州の鉄道の整備・運営のプロジェクトに、日本の企業が参画する機会が増えています。一方、そうこうしている間にも、欧州の鉄道及び鉄道政策は、日本国内にいる私たちがよく知らないところで変化し、また、進展しています。そこで、今般、欧州の最新の鉄道政策をテーマとして取り上げて、日本の鉄道政策と比較することで、私たち自身の足下を見つめ直し、今後の日本の鉄道政策や鉄道事業の手掛かりを得るべく、本日のセミナーを開催することとした次第です。

さて、本日基調講演とパネルディスカッションにご登壇いただきます、英国の名門インペリアル・カレッジ・ロンドンの名誉教授で未来鉄道研究センター所長のロデリック・スミス先生には、ロンドンからわざわざこのセミナーのために来日していただいています。スミス先生、真に有難うございます。

スミス先生のご略歴については、後ほど司会者からご紹介いたしますが、私は、10 年前に初めてお会いして以来今日まで、スミス先生には大変にお世話になっています。私が理事長をしております国際高速鉄道協会 (IHRA) では、2014 年の設立以来、国際フォーラムや IHRA 会議、また、コロナ禍の中の IHRAweb セミナーにおいて、スミス先生にはセッション・チェアやモデレーターなど、これまでに 10 数回にわたってご登壇いただ

き、豊富な知見に基づく、かつ、ユーモアに溢れ、ウィットに富んだ話しぶりで、毎回会議を充実したものにしていただいております。

当研究所との関係では、2018 年に当研究所が主催した「高速鉄道セミナー」で講演とパネルディスカッションにご登壇いただきました。

スミス先生、本日はどうぞよろしくお願いいたします。

次に、本日来賓のご挨拶をいただきます国土交通省の田中由紀国際統括官に、感謝申し上げます。当研究所のことを以前からご存知の方はご記憶があるかもしれませんが、田中さんは、2008 年から 3 年間、当研究所の前身である運輸政策研究機構の国際問題研究所に国土交通省から出向され、その間、「低炭素社会における交通体系に関する研究」と「高速鉄道の海外展開」という2つの大きな国際プロジェクトを、欧州や米国などの海外ネットワークを開拓されながら推進され、立派な業績を収められました。

また、本日のパネルディスカッションにご登壇いただきます関西大学経済学部 宇都宮 浄人(きよひと)教授、東京大学大学院工学系研究科社会基盤学専攻の加藤 裕徳教授、東日本旅客鉄道株式会社の會田(あいだ)和彦様、株式会社日立製作所兼日立レール STS USA 社の我妻(あがつま)浩二様に御礼申し上げます。

本日は、まずスミス先生から、「鉄道の状況と現在の政策：英国、EU 及び日本との比較」と題して、基調講演を行っていただきます。

次に、パネルディスカッションでは、スミス先生の基調講演を受けて、各登壇者からそれぞれコメントをしていただき、議論を進めていきます。ご

登壇いただきます宇都宮先生には、当研究所の共同研究「地域交通産業の基盤強化・事業革新」の検討委員会の委員をお務めいただき、加藤先生は、当研究所の理事であり、共同研究「2050 年の日本を支える公共交通のあり方」の検討委員会で地域間交通小委員長をお務めいただきました。また、日立製作所の我妻様には、私が 2022 年秋に欧州に出張した際に、ロンドンでお会いし、現地の鉄道事情を詳しく教えていただきました。その折には、會田様がかって勤務された JR 東日本ロンドン事務所の所長とJR東海のロンドン事務所長ともご一緒にお会いし、鉄道談義に話が弾んだことを覚えています。

なお、パネルディスカッションの後半には、いつものようにご参加の皆様との質疑応答の時間も用意しています。

最後になりますが、本日のグローバルセミナーが、ご参加いただいています皆様にとりまして、新たな気づきや、今後の取組みへの有益な示唆に富むものとなりますことを祈念しております。本日は、皆様ご参加いただきまして、真にありがとうございます。